

○ 春季の天気：3ヶ月予報（平成29年2月27日現在）

この冬の平均気温は、12月が平年より+1.7、1月が+0.6、2月（26日現在）が+0.1と暖冬になっています。

ただ、気温が平年並みに近づく傾向になっていますので、今後の気温変化、降水量がどう変化するかが注目されます。

2月23日に気象庁から3ヶ月の長期予報が発表されました。気象庁の定義では、3月から5月は春の季節になります。この長期予報に基づき、この春の傾向について解説します。

1 3ヶ月予報（九州南部地方）

（1）気温

	低い	並	高い
3ヶ月平均	20	30	50
3月	30	40	30
4月	30	30	40
5月	20	30	50

（2）降水量

	少ない	並	多い
3ヶ月平均	40	40	20
3月	40	40	20
4月	40	40	20
5月	30	40	30

*表の見方は、農業試験場のHP「農業気象情報」で紹介しています。

2 3ヶ月予報の解説

（1）気温は3ヶ月平均で平年より高い予報です。月ごとには、3月の前半は平年並みかやや低い傾向ですが、その後は平年並みとなる見込みで、4月は平年並かやや高く、5月は平年より高い予報となっています。

そのため、3ヶ月間を通じて、平年より高いという表現になりますが、月ごとには予報の違いが見られます。3月は農作業でも重要な時期になりますので、3月の予報については1ヶ月予報でもご確認ください。

（2）降水量は3ヶ月平均で平年並みかやや少ない予報です。月ごとには、3月はやや少ない傾向、4月もやや少ない傾向、5月は平年並みとなっています。これは、移動性高気圧に覆われることが多く、南からの湿った暖かい空気があまり入らないことが理由です。

3月、4月は降水量が少ない予報ですので、水の管理が重要になります。

3 地上気温の変化

この冬は、12月が高温傾向、1月は10日頃まで高温傾向が続きましたが、11日頃から寒気が南下し、冬型の気圧配置になることが多く、2月もその傾向が続いています。

3月も前半はその傾向が続き、早期水稻の植え付け時期、野菜類の播種・定植時期に重なりますので、温度変化には十分注意してください。

4 今後の見通し

気象庁から同時期に暖候期（6月～8月の夏季）の長期予報が出されました。

それによると、今年の夏は平年より暑くなることが予想されています。

その根拠として、フィリピンの東海上からインドネシアにかけての海域で対流活動が活発になることがあげられます。その影響で、日本の夏を暑くする太平洋高気圧（サブハイ）とチベット高気圧の勢力が強くなり、日本付近を覆うことが予想されています。

特に、チベット高気圧がサブハイの上から日本付近を覆う形になると酷暑になりやすい傾向があります。

しかし、暖候期の予報は、信頼性が1ヶ月、3ヶ月予報よりも低くなるため、注意が必要です。常に最新の情報を入手するよう心がけてください。

なお、昨年秋に発生したと考えられていたラニーニャ現象（6ヶ月以上継続することが必要）は、継続期間が短かったため、現時点では確認されていません。今後は基準値に近い値で推移することが予想されていることから、夏にかけては平常の状態が続く可能性が高いとされています。

総合農業試験場企画情報室 村岡精二（気象予報士）